

2018 文化で滋賀を元気に！賞



大賞 人形浄瑠璃で地域を紡ぐ文化賞

とんだにんぎょうきょうゆうだん

富田人形共遊団（団長 阿部 秀彦さん）／長浜市（団体名／主な活動地域 以下同じ）

【講評】

日本各地に百花繚乱の人形芝居が伝わるそうであるが、偶然にも北富田の地に伝わった人形浄瑠璃の灯を消してはならないと、地元の人たちが声を上げ、新生「富田人形共遊団」を立ち上げてから40年。20数軒しかない集落で伝統芸能を守る道程は至難の業であったに違いない。そのような状況下でも、人形浄瑠璃を通じた様々な人との交流を慈しみながら、伝統的な枠にとらわれることなく、新しい試みにも挑戦し活動の輪を広げていった。

現在、年間の公演数は約30公演に及び、国内各地での公演にとどまらず、北米をはじめとする海外公演も行っている。また、人形浄瑠璃の担い手を育てるため、地元の小中学校に赴き、人形遣いや三味線の体験、実際の演目を披露するなどの普及活動も行っている。平成3(1991)年に「富田人形会館」を竣工してからは、米国ミシガン州立大学連合日本センターの留学生を受け入れ、これまで272名の留学生が人形浄瑠璃や書道・茶道等を体験している。最近では、オペラとのコラボレーションなど先進的な試みも進めている。

「じょうりり」は、もともと仏教用語で美しい宝石を意味するという。北近江の厳しい風土を背景に長年かけて育まれてきた富田人形は、まさに地域の個性であり魅力である。富田人形の保存・継承はもとより、地域の小中学生や住民とのつながり、また海外からの留学生を迎えるなど国際文化交流にも努められ、富田人形を全国、世界に向けて発信し、滋賀県が誇れる文化として育てられてきたことを大いに評価したい。

受賞団体について

富田人形は、長浜市富田町の集落に伝わる人形浄瑠璃で、これを保存・継承しているのが富田人形共遊団である。



江戸末期、阿波（現・徳島県）の人形芝居の一座が、豪雪のため帰国の途中に北富田（現・長浜市）で停留。雪で興行ができず旅費を得る代わりに置いていった人形や大道具一式を使って、集落の青年たちが稽古したのが始まりとされる。

明治7(1874)年には、県の興行許可を得て「富田人形共遊団」として活動を開始し、父子相伝で継承された。そして富田人形は、昭和32(1957)年、滋賀県選択無形民俗文化財に指定される。その後、後継者不足により一時活動を休止していたが、高度経済成長のなか、日本の民衆芸能が忘れ去られつつあった昭和54(1979)年、地域の有志で決意を新たに活動を再開。人形遣いのほかに物語の語り手である太夫（たゆう）、三味線も養成し、要望に応じて全国公演も行うようになった。平成3(1992)年には拠点となる富田人形会館も完成し、伝統芸能の保存・継承にとどまらず、国内外での公演や国際交流など積極的な活動を展開している。

土と炎でつなぐ、伝統文化を未来へ文化賞

しがらきとうしょうかい

信楽陶匠会（会長 荒川 智さん）／甲賀市

信楽は安土桃山時代から続く陶芸の町で、「六古窯」として日本遺産に登録された焼物の産地。しかし、近年は陶産地としての活気も弱まり、窯元や職人も年々減少。信楽陶匠会は、平成 21（2009）年に陶芸作家 5 名により結成。後継者を育て将来に信楽焼を受け継ぎたいと、数々の活動に取り組む。

なかでも「信楽野焼きフェスティバル」では、小さな子どもから大人まで、多くの人に焼物の面白さを伝えている。焼物の原点である野焼きでの焼成は、短時間で全ての工程を子どもでも体験できるうえ、できあがった作品はなんとも言えない温かみがあり、予測されない感動を与えてくれる。体験を通じて、子どもたちが様々に見出していく驚きや発見は、将来の創造の源になる。野焼きでの作陶指導は、幼稚園や学校等にも出向いて行われているという。

今回の授賞候補として、陶匠会には地元の学校を始め普及施設などから 14 件の推薦書が提出された。地元から日頃の活動に感謝され、評価を得ていることがうかがえる。陶匠会が熱心に取り組む人づくり、ものづくりの心を育む活動により、絶えることなく受け継がれてきた偉大な信楽焼の伝承技術が、滋賀県の文化経済の推進力として、ますます発展することを期待したい。



ガリ版のふるさと文化賞

しんがりばんねっとわーく

新ガリ版ネットワーク（会長 山中 壽勇さん）／東近江市

明治 27(1894) 年、東近江市出身の近江商人が「ガリ版」こと「謄写版」を発明、発売した。かつては日常的に使われていた簡易印刷技術で、日本語ワープロ誕生までの約 80 年間、日本の手作り印刷機としての役割を担ってきた。新ガリ版ネットワークは、発祥の地である東近江市に、ガリ版文化を発信する場としてにぎわいをつくらうと、首都圏で活動してきた会の意思を引き継ぎ、平成 20(2008) 年に設立された。

ヤスリの上の和紙にロウを引いた原紙を置き、その上から鉄筆などで描画する「ガリ版」。50 代以上の人なら、ガリガリと文字を刻んだ記憶が時代の空気を帯びて、胸に残っているかもしれない。インターネット世代には、「ガリ版」のアナログの極みのような手間のかかる行程と、作り手の息づかいまでが聴こえてきそうな温かみのある印刷の魅力に惹かれる人も多いという。消えゆく印刷技術の伝承というだけでなく、「人に何かを伝えること」をもう一度問い直す意味でも「ガリ版」を伝える意義は大きい。謄写版に使う機材や道具がなくなりつつある今、保存と伝承を担いながら、「ガリ版」に表現の手段としての新たな価値を見だし、その活用方法を紹介するなど、今後の活動は大い期待できる。



芸能で地域を元気づける文化賞

せきせみまるじんじやげいのうさいじつこういんかい

関蟬丸神社芸能祭実行委員会（会長 川戸 良幸さん）／大津市

歌舞音楽・芸能の祖神といわれる「蟬丸」が祀られた関蟬丸神社は、交通の要・逢坂の関に位置し 1200 年の歴史を有する。近年では蟬丸信仰も以前ほど顧みられなくなり、寂れた様相を見せ始めた境内は老朽化が進み、社殿の傷みは目に余るものとなっていた。この状況を危惧した市民や地元企業関係者らが実行委員会を立ち上げ、芸能の祖神「蟬丸」を現代に蘇らせることで、なんとか再建を支援したいと始まったのが「関蟬丸芸能祭」である。

拜殿を舞台に、能や舞踊、和太鼓、箏曲、雅楽からジャズや吹奏楽まで、幅広いジャンルの芸能が奉納される芸能祭は、毎年千人以上の観客でにぎわう。出演応募者も回を追うごとに増え、神社再興に向けた機運も高まっている。

実行委員や地域ボランティアが一丸となった芸能祭の開催は、社殿の修復を最終目的とせず、芸術文化の発展、大津市の中心市街地活性化、観光の振興も視野に入れる。活動の公益性、発展性を評価するとともに、2022 年に計画される御鎮座 1200 年記念事業の成功を祈りたい。



表彰概要

■表彰の種類

- (1) 各賞 文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に貢献している団体または個人（若干名）
- (2) 大賞 (1) の受賞候補者のうち最も評価された団体または個人（1 名）
- (3) 各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定

■表彰式

平成 31 年 2 月 17 日（日）14:35 ～ びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール「淡海」
※受賞者には賞状と記念のトロフィー（陶芸家 川崎千足氏制作）、賞金を贈呈。

■募集期間

平成 30 年 8 月 1 日（水）～平成 30 年 10 月 31 日（水）

■候補者

募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀事務局に提出。自薦、他薦は問わない。

■選考

平成 30 年 12 月 13 日（木）選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を選考。

選考委員

饗場 貴子 [元・大津青年会議所理事長]、秋村 洋 [(株)プラネットリビング代表取締役]
十倉 良一 [京都新聞社論説委員]、南 千勢子 [ピアニスト]、山中 隆 [(公財)びわ湖芸術文化財団理事長]